

日本鉄鋼協会記事

研究委員会

第1回委員会 開催日：4月27日。出席者：的場会長
盛委員長，ほか9名。

研究委員長の交代(今井前委員長から盛委員長へ交代)
と研究担当理事の交代に併せて，研究担当新理事の紹介
を行ない，現在の研究委員が任期満了になるので新研究
委員の人選を行なった。

また研究委員会の下部組織の活動状況を検討し，基礎
問題小委員会と将来計画小委員会を廃止することに決定
した。

編集委員会

第3回和文会誌分科会 開催日：5月11日。出席者：
松下主査，ほか12名。

1. 論文審査報告
12件の報告があり，掲載可7件，修正依頼4件。
2. 鉄と鋼第57年第12号掲載論文選定
論文5件，技術資料，展望，委員会報告各1件を選
定。
3. 技術資料依頼について
技術資料4件を依頼，論文を1件勧誘することを決
定。

第2回出版分科会 開催日：5月19日。出席者：佐藤
主査，ほか4名。

1. 鉄鋼製造法に関する件
原稿査読結果の報告があり，今後のタイムスケジ
ュールを検討した。

欧文会誌分科会 開催日：5月26日。出席者：中村正
久幹事，ほか12名。

1. 8件の論文について審査報告がなされた。
2. 「鉄と鋼」6号より4件の論文について投稿を勧
誘することとなった。

共同研究会

製鉄部会

第2回コークス分科会 開催日：5月19～21日。出席
者：勝屋主査，ほか76名。

東京私学会館にて各社多数の出席のもとに行なわれ
た。議題は下記のとおりである。

1. 高炉用コークスの性状について
 - (1) 高炉用コークスの品質基準の根拠と考え方
 - (2) 高炉炉況とコークス品質との関連
 - (a) 高炉炉況とコークス品質の相関分析のまとめ
 - (b) 羽口から採取したコークスの性状
 - (c) コークス強度に及ぼす各種製造条件の影響に
ついて
 - (d) コークス工場で，過去2年間に実施したコー
クス強度向上策
2. コークス炉における自動化，機械化

3. コークス炉における粉塵発生量の測定方法につい
て

4. (a) コークス工場操業データ報告
(b) 昭和45年度における輸入炭性状

なお，見学は日本鋼管(株)京浜製鉄所水江工場へ行つ
た。

条鋼部会

第14回大形分科会 開催日：5月13～14日。出席者：
伊木幹事長，渡辺主査，ほか75名。

第1日

工場操業状況，品質歩留向上対策，熱間鋸断機および
冷却床の現状と問題点について各事業所提出の資料と質
問状とによって活発な討議が行なわれた。

第2日

石橋八幡製造所技術部長，吉岡条鋼工場長から八幡製
鉄所の概要と二，三大形の説明をうけた後戸畑製造所の
一般見学と八幡製造所二，三大形の見学を行なった。

熱経済技術部会

開催日：4月22，23日。出席者：山内部会長，ほか67名

1. 共通議題
 - (1) WB, WH 加熱炉の現状と問題点
 - (2) 代替燃料の使用状況，燃料試験結果ならびに文
献紹介
 - (3) 鋼材冷却の改善結果
 - (4) 新設炉の紹介ならびに既設炉の設備方式，操業
方式の改善
 - (5) その他
2. 工場見学
新日本製鉄(株)名古屋製鉄所
愛知製鋼(株)知多工場

第3回原子力部会還元ガス小委員会

開催日：5月17日。出席者：池田小委員長，ほか23名。

1. 実行計画の決定
還元ガス製造の実験に関する実行計画を承認した。
2. 実行予算の決定
総額約6,400万円の実行予算を承認した。
3. 共同研究契約書の審議
共同研究契約書案(第4次案)を審議し，次回最終的
な検討を行なうこととした。

第4回熱交換器小委員会

開催日：4月26日。出席者：吉田(小委員長代行)ほか，
23名。

1. 前回議事録確認
2. 昭和46年度共同研究「原子力製鉄用高温熱交換器
の研究」の参加各社による費用分担ならびに追加費用な
どについて協議された。

3. 本共同研究の実行計画が承認された。
 4. 本共同研究の実施にあたって、耐熱材料およびヘリウムコンプレッサーの購入仕様について検討が行なわれた。
 5. 共同研究契約書案について説明後、討議された。
- 第14回第4小委員会** 開催日：5月14日。出席者：森委員長，ほか17名。
1. 前回議事録確認
 2. システム小委員会報告
 3. 脱水素装置について
チタンスポンジ方式による脱水素装置および水素濃度測定装置の計画ならびに製作費見積りについて紹介された。
 4. 熱交換器の設計について
実験ループ用熱交換器の熱流束について管径と関連して討議された。
 5. 中規模実験用熱交換器
中規模実験用熱交換器の基本的な設計思想について検討を行なった。
 6. 森委員長出張報告
主にドイツ原子力研究所 (KFA) の研究者との討論を中心に報告された。
 7. 次回予定
昭和46年6月10日

鉄鋼生産設備能力調査委員会

- 第11回電気炉設備分科会** 開催日：5月19日，20日。出席者：松本主査，ほか41名。
1. 共通テーマ
 - 電気炉の高電力操業について
 - 主原料対策
 - 炉前成分分析法と機器
 2. 第2日目に還元鉄の実験報告をまとめて討議した。

標準化委員会

- SC 4 分科会** 開催日：5月21日。出席者：鈴木，ほか12名。
1. デュッセルドルフ会議の議案の審議
 - (1) 軸受鋼
 - (a) I D (1) 鋼種のかたさはHB201以下とする。
なお Jominy および I D (2) 鋼種のかたさと Jominy は山陽で案を作成する。N436 についても山陽で案をまとめる。
 - (2) 析出硬化型ステンレス鋼
Type 4~9 鋼の6鋼種の採用の可否，Type 6 鋼の熱処理条件，表4の熱処理温度範囲については日本冶金でチェックする。
 - (3) パルプ鋼
化学成分の許容変動についての意見を大同製鋼でまとめる。
 - (4) 工具鋼
JIS 鋼種を提案するが，生産実績を考慮に入れる。

案のまとめは日本特殊鋼に一任した。

- (5) R683 の改正
本文は問題ないが，表4の引張強さの上限を削除するよう提案する。
 - (6) 冷鍛および押出材
次回さらに検討する。
 - (7) 耐熱鋼，耐クリープ鋼
案の検討を日本冶金工業に依頼した。
 - (8) フック・チェーン用鋼
次回検討するが，必要に応じて TC/I11国内委員会とのジョイントコミッティをもつ。
2. 主査，幹事の変更
鈴木主査が，清水主査に，清水幹事が徳梅幹事に，また甲川幹事が水野幹事にそれぞれ変更された。
- SC 12 分科会** 開催日：5月22日。出席者：三佐尾，ほか，5名。
1. 構造用熱間圧延炭素鋼薄板 (N74) の検討
 - (a) SC 3 で，42キロと44キロは44キロに統一されたが FE42を残すよう頑張る。
 - (b) N/mm² を kg/mm² に換算する場合の丸め方のルール化を提案する。
 - (c) 化学成分で，C, Si を 0.22, 0.55 とするよう提案する。
 2. 構造用冷間圧延炭素鋼薄板 (N75) の検討
 - (a) パイプ用あるいは自動車用として若干生産されている程度なので積極的な提案は行なわないことにした。
 - (b) 記号は強さ表示とし，Rm の値をとるよう提案することにした。

データシート部会

- 第6回構造用鋼の機械的性質分科会**
開催日：4月26日。出席者：八巻主査，ほか9名。
1. データーのまとめ方について
資料をもとにデーターのまとめ方について討議した。
 2. 今後の運営について
今回のデーターのまとめを完了した後，どのような鋼種についてデーターを取るか討議した。
あげられた鋼種としては次のようなものがある。
SCr4, SCr22, SMnC21, SMn3, SCM17
- データーシート部会高温引張試験分科会**
開催日：4月21日。出席者：長谷川主査，ほか8名。
1. データーのまとめについて
作成する資料，資料のまとめ方，整理上の問題点について，および図面の作成について討議した。
 2. 今後の進め方
6月中に親部会へ報告できるように作業を進める。
-
- 第26回標準化特殊鋼分科会** 開催日：3月29日。出席者：西主査，ほか11名。
1. JIS 規格の見直しについて
G4052, 4801, 4805, について，答申案について検討した。
 2. 規格記号体系について

考え方を次のとおりまとめた。

- (1) 用途別の分類とする。
- (2) 用途別の分類はアルファベット数字の組合せあるいは2桁の数字で示す。
- (3) C量は2桁の数字で示す。
- (4) 主成分は1～2桁の数字で示す。

鉄鋼標準試料委員会

第35回委員会 開催日：4月28日。出席者：池田委員長，ほか18名。

1. 45年度の試料頒布状況報告
45年度一年間に化学分析用 4377 本， 機器分析用188組が頒布された。
2. 製造予定
酸索標準試料については <10ppm, 10～30, 40～60, 100, 200, 400, 600, 900 を製造することが確認された。
3. 内規の見直しについて
41年に制定された内規には改訂必要箇所もあるので今回見直すこととした。

試験高炉委員会

第20回委員会 開催日：5月11日。出席者：若林委員長代行，ほか14名。

鉄連・銑鉄部会に試験高炉委員会より提出する資料について審議を行なった。報告項目は下記の通りである。

1. 東大試験高炉第21操業経過報告
 2. 東大試験高炉ペプル式熱風炉運転経過報告
 3. 東大 1 t 高炉第21次操業関係決算報告
 4. 東大 1 t 高炉第22次操業計画 (案)
 5. 東大 1 t 高炉第22次試験予算 (案)
 6. 東大 1 t 高炉第22次試験費各社分担額 (案)
- 第22次操業では反応性の低いコークスとして石油コークス (1種類) を使用し，普通コークスとの比較試験を

行なう。これにより反応性の低下がいかにかコークス比に寄与するかを調査する。なお期間は今夏8月1日より15日までの2週間で行なうことに決定した。

第10回連続製鋼小委員会 開催日：3月31日。出席者：大石小委員長，ほか14名。

46年度計画について
中間報告のまとめ方および今後の計画について討議した。

JMTR 利用委員会 開催日：4月20日。出席者：長谷川委員長，ほか26名。

1. 試料分担の確認
2. 照射試験の進行状況報告
3. 照射後試験の進行状況報告
4. 照射利用見積について
5. PC鋼線小委員会報告

鉄鋼基礎共同研究会

第9回遅れ破壊部会 開催日：4月30日。出席者：藤田部会長，ほか14名。

1. 研究発表
「電気化学的水素透過速度測定法の鋼板への適用」
久松氏 (東大)
・水素の透過，decay の測定実験結果について，理論との比較などが報告される。
2. 部会研究テーマについて
各委員の研究テーマを集約し，部会全体としての研究分担などを検討した。
3. 46年度特別研究費の用途について
特別研究費 787 万円の用途について最終的に検討を行なった。